

両親の養育態度と子どもの基本的生活習慣

篠原 弘 章・吉 本 逸 子*

The Influence of Parental Leadership-Behavior upon Children's Basic Habits of Daily Life

Hirofumi SHINOHARA and Ituko YOSHIMOTO

(Received September 4, 1995)

The purpose of this study was to investigate the influence of parental leadership upon children's basic habits of daily life. The subjects were 267 school children (fourth, fifth and sixth grade) in Kumamoto City. parental leadership was divided into four types: PM-type, P-type, M-type and pm-type, based on the P-M theory. The main results were as follows: (1) According to the Direct Varimax-method, the following 5 factors were found in the daily-basic-behaviors with 40-items: (F1) safety and putting their things in order, (F2) keeping oneself neat and clean, (F3) getting out of bed, (F4) manner of conversation, and (F5) appreciating and apologizing to others. (2) Children of the PM or M type parents condition had significantly better habits than P or pm parents condition on F1 and F2 scores. (3) The PM-type mother had greater influence than pm-type mother in facilitating effective habits in F3. The pm-type father is less effective upon his son. (4) The PM-PM parents is more effective than the pm-pm type parents on over-all children's basic habits of daily life.

Key word: parental leadership, basic habits of daily life, P-M leadership-theory

問 題

現在，学校教育において，子どもの基本的生活習慣の未確立が問題となっている。

文部省の「基本的生活習慣の指導」の手引書(昭和 60 年 3 月)によれば，基本的生活習慣は，「人間のあらゆる態度や行動の基礎になるもので」，「児童期の基本的生活習慣の未確立は，自らの生命，健康，安全の確保を危うくするだけでなく，円滑な人間関係や社会生活を送る上でも支障をきたし，更には，児童期に続く青少年期の好ましくない生活態度や問題行動の発生に結び付く危険性を十分もっている」。基本的生活習慣とは，「社会に適応する処世術を指すのではなく，人間の生き方についての自覚を深めるという道徳性の育成」と結び付いたものとされている。

基本的生活習慣の内容は，一般に，生存に関すること，生命尊重や健康安全に関すること，礼儀作法に関すること，お手伝いに関すること，学習に関することとして分類できる。さらに，生存に関することには，食事，睡眠，排泄などが含まれ，生命尊重や健康安全には，身体や衣服の清潔，交通及びその他の安全が含まれる。規則正しくきまりよい生活には，物や金銭の活用，自他の物の区別，時間の尊重，身の回りの整理整頓，規則を守ること，などが含まれる。礼儀作法には，挨拶，言葉づかい，食事の作法が含まれ，お手伝いは，家庭での様々な仕事の手伝いであ

* 長崎市磯道町 9-21

る。そして、学習には、学校場面と家庭での学習が含まれる。以上の基本的生活習慣の内容は、日常生活全般にわたって児童期までに身につけておくべきものと考えられている。しかし、実際には児童生徒においてはその習慣化は十分ではないことが多い。児童期において基本的生活習慣が不十分な場合、児童の性格形成にマイナスに作用すると考えられる。望ましい基本的生活習慣の確立は、子どもの自主性を育て、自立を促すものである。そして、それは子どもの社会化の過程できわめて重要な発達課題の一つである。その確立に重要な役割を果たすのは、家庭でのしつけである。子どもに影響を与える要因は、家族やきょうだい関係だけでなく、教師や友人、地域社会の人々からの影響もみのがせないが、基本的な要因は、両親あるいは両親に代わる者の子どもに対する養育態度である。よって、本研究においては、どのような親の養育態度が子どもの基本的生活習慣の形成に効果的かを検討することを試みた。

従来、両親の養育態度に関する研究は様々行われてきた。例えば、養育態度の次元については、E. S. Schaefer(1958, 1959)の愛情-敵意・統制-自律、T. Parsons(1955)の Expressive-Instrumental の次元、小嶋(1970)の愛情-統制、石黒ら(1954)の愛情-強制の次元、古川、三隅、篠原(1969)の情緒的相互作用の M 因子と社会化促進作用の P 因子の研究がある。

三隅(1966, 1978)の P-M リーダーシップ論に基づいて親の養育態度の効果を検討した研究には、児童の達成動機(篠原、福山, 1987)、両親パワーについての児童の認知(篠原、森田, 1989)、児童の自己教育力(篠原、井上, 1991)、雲仙普賢岳災害(篠原, 1994; 古賀, 篠原 1994)についての諸研究がある。そこでは一般に PM 型の親が pm 型の親よりも望ましい効果を児童に与えていると概括できる。

本研究では、P-M リーダーシップ理論にもとづいて 4 つの P-M 式養育類型が児童の基本的生活習慣に及ぼす効果を検討することを目的とした。

P-M 理論によれば、PM 型の親は、こどもに対して理解があり情緒的にも支持し、躾や訓練面でも厳しい態度をもつ類型である。P 型の親は躾や訓練面で厳しいが、情緒的な支持が乏しい親である。M 型の親は、こどもへの情緒的な支持は高いが、厳しい態度がとれない親である。pm 型の親は、こどもに対して情緒的な支持も乏しく、また厳しく接することも少ない親である。

研究仮説は、以下の如くである。

- 1) PM-PM の両親は、子ども(男女ともに)の基本的生活習慣の形成にプラスの効果を及ぼすし、pm-pm の両親は、子ども(男女ともに)の基本的生活習慣の形成にマイナスの効果を及ぼすだろう。
- 2) P タイプの父親は、男子の基本的生活習慣の形成にマイナスの影響を及ぼすだろう。また P タイプの母親は、女子の基本的生活習慣の形成にマイナスの影響を及ぼすだろう。

方 法

〈被調査者と調査期日〉 本研究の被調査者は、熊本市内の R 小学校 4~6 年生で、無答の多い者や、両親のいずれかが健在でない者は除き 267 名を対象とした。内訳は、4 年男子 35 名、女子 33 名、5 年男子 47 名、女子 44 名、6 年男子 52 名、女子 56 名であった。調査手続きは、調査票を 1985 年 11 月中旬、小学校に一週間預けておき、学級毎に担任教師が 1 問ごとに質問を読み上げたあと児童が回答する集合調査法を用いた。

〈質問紙調査の作成〉 両親の養育行動の測定項目は、篠原・福山(1987)、篠原・森田(1983)と同じ20項目を用いた。これらは、子どもの躾や訓練に関するP項目10問と、情緒的支持や受容の10問で、いずれも5段階のリッカート尺度から成る。項目内容はTable 1-2を参照のこと。Table 1-1には予備の項目12問を含めた32項目を示した。

子どもの基本的生活習慣に関する項目は、社会生活に必要な生命尊重、健康、安全に関する行動、規則正しくきまりよい生活に関する行動、礼儀作法に関する行動を選定し、計40項目を作成した。項目内容は、次のとおりである。

Q1 朝起きたらきちんと顔を洗いますか。Q2 夜ねる前に歯をみがいていますか。Q3 かみの毛を清潔にするように気をつけていますか。Q4 つめを清潔にするように気をつけていますか。Q5 耳の中を清潔にするように気をつけていますか。Q6 食事の前に手を洗いますか。Q7 トイレの後、手を洗いますか。Q8 手を洗った後、ハンカチやタオルでふきますか。Q9 おふろに入りますか。Q10 下着をとりかえますか。Q11 学校にハンカチとちり紙を持って行きますか。Q12 早ね早おきをしていますか。Q13 お母さんや家族の人に起こされずに自分で起きますか。Q14 朝ごはんをき

Table 1-1 両親の養育行動の直接バリマックス因子とグループ主軸因子の因子負荷量

No.	項目の主旨	平均値		バリマックス因子				共通性 h ²	主軸因子	
		父	母	1	2	3	4		1	2
1	手伝いをするように	2.96	3.56	.060	.424	-.053	.175	.217	.519	.114
2	礼儀やきまりを守るよう	3.29	3.51	.232	.351	-.131	.442	.390	.604	.278
3	悪いことを叱る	4.07	4.20	.128	.304	-.110	.529	.401	.640	.195
4	言うことをきくように	2.89	3.01	.202	.369	-.101	.269	.259	.579	.239
5	指図する	2.72	2.97	.279	.477	-.035	.271	.381	.678	.322
6	やるまでやかましい	3.05	3.37	.011	.492	.015	.200	.282	.597	.090
7	一人でやるようにいう	3.11	3.12	.263	.351	-.114	.340	.321	.618	.306
8	立派な人間になるように	3.23	3.21	.275	.298	.020	.352	.288	.574	.322
9	お金の使い方	2.53	2.88	.160	.468	-.091	.162	.279	.568	.216
10	家の中で騒がないよう	3.20	3.49	.132	.337	-.269	.263	.273	.555	.176
11	病気をしないようにいう	3.98	4.20	.532	.138	-.159	.111	.340	.325	.603
12	悩みや心配ごとの相談	3.43	3.80	.669	.105	.001	.021	.459	.271	.706
13	失敗を元気づけてくれる	3.64	3.81	.721	.076	.036	-.059	.530	.232	.749
14	気軽に聞いてくれる	3.86	4.01	.615	.055	.096	.021	.391	.200	.664
15	気持ちを大事にする	4.00	4.13	.752	.035	-.026	.113	.581	.307	.771
16	見方を理解しようとする	3.59	3.75	.703	.153	-.013	.033	.519	.372	.726
17	よいことをほめてくれる	4.30	4.45	.569	.009	.042	.162	.352	.219	.623
18	楽しい話をしてくれる	3.50	3.69	.603	.061	-.003	-.098	.378	.163	.647
19	勉強や遊びの相手になる	3.21	3.16	.491	.094	.015	.042	.251	.216	.570
20	家を明るくしようとする	3.91	4.06	.676	.096	-.048	.077	.474	.298	.722
21	どこで調べるかを教える	3.85	4.01	.517	.056	.071	.095	.285	.239	.511
22	こどもの意見をきく	3.71	3.90	.534	.066	.190	.010	.325	.140	.514
23	自由に外に行かせる	4.20	4.23	.114	-.153	.568	.112	.371	.089	.091
24	やりたいようにやらせる	3.47	3.47	.212	-.077	.596	-.032	.406	.103	.180
25	帰りの時間に厳しい	3.07	3.42	.283	.441	-.287	.022	.358	.405	.314
26	放課後好きなようさせる	3.57	3.58	.174	-.164	.490	-.146	.319	.174	.138
27	外でのことを話させる	2.45	2.72	.345	.463	.063	-.064	.341	.362	.388
28	勉強に興味をもっている	3.25	3.46	.381	.358	.075	.113	.292	.415	.427
29	している事を知りたがる	2.72	3.00	.276	.498	-.047	-.003	.326	.360	.317
30	読んでいる本を気にする	2.59	2.85	.171	.489	-.061	-.041	.274	.327	.217
31	すべてを見張っている	2.17	2.41	.109	.619	.014	-.056	.399	.385	.172
32	遊び友達を気にする	2.48	2.89	.023	.627	.014	-.143	.414	.348	.091
因子分散				5.56	3.49	1.24	1.19	11.47	3.54	4.64
寄与率(%)				17.4	1.9	3.9	3.7	35.9	35.4	46.4

Table 1-2 両親の養育行動 20 項目の直接バリマックス因子の因子負荷量

No.	項目の主旨	直接バリマックス因子				共通性 h ²
		1	2	3	4	
1	手伝いをするようにいう	.042	.481	.020	-.318	.334
2	礼儀やきまりを守るよう	.207	.514	-.055	-.038	.311
3	悪いことを叱る	.095	.578	.017	.025	.344
4	言うことをきくように	.189	.478	.013	.053	.267
5	指図する	.268	.573	.005	.083	.407
6	やるまでやかましい	.000	.562	.034	-.092	.325
7	一人でやるように	.239	.507	.043	.202	.358
8	立派な人間になるように	.252	.474	.101	.334	.410
9	お金の使い方	.160	.475	-.079	-.073	.263
10	家の中で騒がないように	.110	.496	-.061	-.181	.294
11	病気をしないようにいう	.513	.201	-.046	-.005	.306
12	悩みや心配ごとの相談	.676	.116	-.057	-.003	.473
13	失敗を元気づけてくれる	.731	.037	-.048	.053	.541
14	気軽にきいてくれる	.603	.043	-.046	-.109	.379
15	気持ちを大事にする	.745	.124	-.138	.036	.591
16	見方を理解しようとする	.705	.207	-.026	.035	.542
17	よいことをほめてくれる	.543	.084	.041	.113	.317
18	楽しい話をしてくれる	.600	.000	.371	-.018	.498
19	勉強や遊びの相手になる	.480	.098	.385	.033	.390
20	家を明るくしようとする	.669	.148	.196	-.039	.510
因子分散		4.32	2.81	0.38	0.35	7.86
寄与率(%)		21.6	14.0	1.9	1.7	39.3

ちんと食べていますか。Q15 きまった時間に大便をしますか。Q16 朝学校に行く身じたくを自分でしますか。Q17 学校の机の中を整理していますか。Q18 道や公園にゴミを捨てないように気をつけていますか。Q19 自分のまわりにゴミがちらかっていたら拾いますか。Q20 ごはんの時口の中に食べ物が入ったまましゃべらないように気をつけていますか。Q21 ごはんの時嫌いな物でも食べますか。Q22 人の話を聞く時は静かに聞きますか。Q23 目上の人と話す時ことばづかいに気をつけますか。Q24 人から親切にされた時など「ありがとうございます」と言えますか。Q25 人にあやまらなければいけない時「ごめんなさい」と言えますか。Q26 朝起きたら家族の人に「おはよう」とあいさつをしますか。Q27 学校から帰ったら家族の人に「ただいま」とあいさつをしますか。Q28 学校の規則をきちんと守っていますか。Q29 学校に遅刻をしないように行っていますか。Q30 授業中大きな声ではっきりと発表しますか。Q31 家の手伝いをしますか。Q32 学校の宿題を人から言われなくても自分からしますか。Q33 お金のむだづかいをしないように気をつけていますか。Q34 鉛筆や消しゴムなどを大切にしていますか。Q35 公共の物を大切にしていますか。Q36 友だちの持ち物と自分の持ち物をきちんと区別していますか。Q37 学校の行き帰りの時、列を広げて歩かないように気をつけていますか。Q38 自転車に乗ってふざけないように気をつけていますか。Q39 せまい所で悪ふざけをしないように気をつけていますか。Q40 信号をきちんと守っていますか。

各項目には、1.いつも、2.ときどき、3.ぜんぜんしない、という3段階尺度を設けた。

結果及び考察

1 両親の養育態度項目得点の一般的傾向

両親の養育態度項目の選択肢は、1～5までの五段階尺度で、中間点は3点である。Table 1-1に回答者全体の父母別の全体平均を示した。

平均点の低い2点台の項目は、Q1家の手伝いをするように言う(父2.96), Q4目上の人の言う事を聞くように言う(父2.89), Q5何をすべきかを指図する(父2.72, 母2.97), Q9お小遣いやお金の遣い方についてやかましく言う(父2.53, 母2.88), Q27何でも外であったべき事は話すように言う(父2.45, 母2.72), Q29何をしているかを知りたがる(父2.72), Q30どんな本を読んでいるかを気にかける(父2.59, 母2.85), Q31している事をすべて見はっている(父2.17, 母2.41), Q32どんな友だちと遊んでいるか気にかける(父2.48, 母2.89)の9項目である。これらは、ほとんどがP項目である。そのうちQ1, Q4, Q29の3項目は、父親に関してだけ低得点を示した。

平均点が高い4点台の項目は、Q3悪い事をした時にはしかる(父4.07, 母4.20), Q11けがや病気をしないように気をつけてくれる(母4.20), Q14意見や考えを気軽に聞いてくれる(母4.01), Q15気持ちを大事にしてくれる(父4.00, 母4.13), Q17良い事をしたり良い物を作った時ほめてくれる(父4.30, 母4.45), Q20家族を明るくしようとしている(母4.06), Q21調べ物がある時どこで調べたらよいか教える(母4.01), Q23自由に外に行かせてくれる(父4.20, 母4.23)の8項目である。これらは、ほとんどがM項目である。そのうち、Q11, Q14, Q20, Q21の4項目は、母親に関してだけ高得点を示した。その他の項目は、全て平均点が3点台であった。

一般に、両親のP項目は低く、M項目は子どもに高く認知された。このことは子どもたちに映る平均像としての父親、母親が、「厳しく、うるさい」親としてよりも、「やさしく、理解のある」親としてうけとられている。また、P, M項目いずれも母親が父親より高く評価されている。これは、母と子の生物学的なかわり、つまり出産、授乳、幼児期からの養育というように母親は父親より子どもと接する機会が多いためと思われる。

〈養育態度項目の因子分析〉

父母の評定データをプールしたデータに基づいて養育態度評定尺度32項目について、直接バリマックス法による因子分析を行った。このとき、ピアソンの相関行列の主対角要素に各行の絶対値最大の相関係数を共通性の推定値として用いた。Table 1-1では、因子負荷量の絶対値が.400以上のものをゴシック体で示した。

第1因子に高く負荷した項目は、Q15気持ちを大事に、Q13失敗時に元気づける、Q16見方を理解する、Q20家を明るく、Q12心配事の相談、Q14気軽に聞く、Q18楽しい話、Q17誉めてくれる、Q22こどもの意見を聞く、Q11病気をしないように言う、Q21どこで調べるかを言う、Q19勉強や遊び相手、の順で12項目であった。これらの項目内容からは、第1因子は、子どもに対する愛情、情緒的な支持の因子と名付けてよいだろう。Q21とQ22を除けばQ11～Q20までの10項目はすべて、篠原ら(1987, 1989, 1991)がM尺度として用いてきた項目であるので、本研究でM尺度として用いることは妥当であろう。これは、Q11～Q20までをグループと指定したグループ主軸法による第2因子に.511～.771とすべて高く負荷していることから裏付けられる。

直接バリマックス法の第2因子に高く負荷した項目は、Q32遊び友達を気にする、Q31見張っ

ている, Q29 していることを知りたがる, Q6 やるまでやかましい, Q30 読んでいる本を気にする, Q5 指図する, Q9 お金の使い方にきびしい, Q27 外でのことを話させる, Q25 帰りの時間に厳しい, Q1 手伝いをするように言う, の順で 10 項目であった。これら項目の内容から, 第 2 因子をこどもに対する指示・干渉の因子と命名してよいだろう。

第 3 因子では, Q24 やりたいようにやらせる, Q23 自由に外に行かせる, Q26 放課後好きなようにさせる, という 3 項目なので, これを放任の因子として名付けてよいだろう。

第 4 因子は, Q3 悪いことを叱る, Q2 礼儀や決まりを守るように言うという 2 項目なので, これを, こどもへの規律遵守の因子として名付けてよいだろう。

以上のバリマックス因子の第 2 と第 4 因子について, 因子の解釈の基準を, 300 以上の負荷量に引き下げて項目内容をみなおすと, Q1~Q10 までの 10 項目はすべてが第 2 因子に属する。さらに, Table 1-1 の右端に示すようにグループ主軸法で Q1~Q10 までをグループ指定した場合, これらの 10 項目は, .519~.678 の高い負荷量を示し, 1 つの因子としてまとまった。よって, 本研究において P 尺度項目は, 予備項目の Q20~Q32 よりも小さい負荷量を示すものがあつたとはいへ, P 尺度の尺度構成は妥当であつたといつてよい。

さらに Q1~Q20 までを直接バリマックス法で再度因子分析を行うと Table 1-2 に示すように, 第 1 因子は, Q1~Q10 までの 10 問が, こどもに対する指示や訓練・自立に関する P 項目がまとまっている。第 2 因子には, Q11~20 までの 10 問が愛情や情緒的な支持に関する M 尺度としてまとまっている。同様に, Q11~Q20 までをグループに指定した Table 1-1 のグループ主軸因子の第 2 因子はすべて .500 以上の高い因子負荷量を示している。従つて M 尺度としての設定は妥当であつたと言える。よつて, 以下の両親の養育態度の類型化のための P, M 尺度は, これらのそれぞれ 10 問を用いることにした。

〈両親の養育態度の類型化〉

P, M 得点は, 父親と母親それぞれについて児童ごとに算出された P 尺度 10 問の合計点, M 尺度の 10 項目の合計点である。P, M 得点の全体平均をもとにして(父の P 平均 31.05, SD=7.16, α 係数=0.81 母の P 平均 33.32, SD=6.58, α 係数=0.77 父の M 平均 37.42, SD=7.95, α 係数=0.88 母の M 平均 38.46, SD=7.09 α 係数=0.86), 父親の P 得点は 32 点以上, M 得点は 38 点以上, 母親の P 得点は 34 点以上, M 得点は 39 点以上を, P 尺度, M 尺度の高低 2 分割の折半点とした。各尺度の高低を組み合わせることによつて, 従来と同様に, 父母をそれぞれ PM 型, P 型, M 型, pm 型の 4 つに類型化した。さらに, 両親の 4 類型を組み合わせると, 4×4 の計 16 通りの類型ができる。

そこで, 性差と父親の養育類型と母親の養育類型の 3 要因独立モデルによる尤度比検定を行つ

Table 2 性別と両親の養育類型についての尤度比検定
(要因 A, B, C の固定モデル)

変動源	χ^2	df	p
性別 (A) × 父のタイプ (B)	16.488	3	<.001
性別 (A) × 母のタイプ (C)	7.645	3	<.10
父のタイプ (B) × 母のタイプ (C)	219.700	9	<.001
(A) × (B) × (C)	10.557	9	ns
全体	254.390	24	<.001

Table 3 性別と両親の養育類型の諸クロス集計の尤度比検定および残差分析

変動源と人数		養育類型 (%)				調整後の残差				
		P M型	P 型	M 型	p m 型					
3.1 性別 (A) × 父親 (B)										
男子	N=134	57 (42.6)	24 (17.9)	24 (17.9)	29 (21.6)	3.34**	1.16	-2.06*	-2.48*	
女子	N=133	31 (23.3)	17 (12.8)	38 (28.6)	47 (35.3)	-3.34**	-1.16	2.06*	2.48*	
$\chi^2=16.49, df=3, p<.001$										
3.2 性別 (A) × 母親 (C)										
男子	N=134	54 (40.3)	18 (13.4)	21 (15.7)	41 (30.6)	1.88	-1.34	-2.00*	0.92	
女子	N=133	39 (29.3)	26 (19.5)	34 (25.6)	34 (25.6)	-1.88	1.34	2.00*	-0.92	
$\chi^2=7.65, df=3, p<.10$										
3.3 父 (B) × 母 (C) の類型										
P M	N=88	67 (76.2)	9 (10.2)	12 (13.6)	0 (0.0)	9.93**	-1.93	-1.97*	-7.16**	
P	N=41	7 (17.1)	18 (43.9)	0 (0.0)	16 (39.0)	-2.59**	5.14**	-3.55**	1.69	
M	N=62	14 (22.6)	2 (3.2)	35 (56.5)	11 (17.7)	-2.31*	-3.21**	7.97**	-2.07*	
p m	N=76	5 (6.6)	15 (19.7)	8 (10.5)	48 (63.2)	-6.11**	0.91	-2.57*	8.04**	
$\chi^2=219.70, df=9, p<.001$										
3.4 性別 (A) × 父 (B) × 母 (C)										
男	P M	N=57	44 (77.2)	6 (10.5)	7 (12.3)	0 (0.0)	8.98**	-0.55	-0.81	-4.23**
	P	N=24	2 (8.3)	8 (33.3)	0 (0.0)	14 (58.4)	-2.23*	2.73**	-2.27*	3.87**
	M	N=24	5 (20.8)	1 (4.2)	13 (54.2)	5 (20.8)	-2.11*	-2.04*	2.95**	-1.47
	p m	N=29	3 (10.3)	3 (10.3)	1 (3.5)	22 (75.9)	-3.42**	-1.49	-2.82**	4.07**
女	P M	N=31	23 (74.2)	3 (9.7)	5 (16.1)	0 (0.0)	2.43*	-1.81	-1.57	-4.21**
	P	N=17	5 (29.4)	10 (58.8)	0 (0.0)	2 (11.8)	-0.92	3.94**	-2.26*	-1.76
	M	N=38	9 (23.7)	1 (2.6)	22 (57.9)	6 (15.8)	-0.64	-2.02*	7.01**	-1.05
	p m	N=47	2 (4.3)	12 (25.5)	7 (14.9)	26 (55.3)	-3.72**	2.62**	-0.33	5.56**
$\chi^2=10.56, df=9, ns.$										
計		93	44	55	75					
(注) ** $p<.01, *$ $p<.05, ()$ 内は%										

た。その結果を Table 2, 詳細を残差分析とともに Table 3 に示した。

Table 2 によれば、変動源全体の $\chi^2=254.390$ は 0.1%水準で有意で、これらを分割すると次の3つの変動が有意であった。すなわち、性差と父親の類型 ($p<.001$)、性別と母親の類型 ($p<.10$)、父親と母親の類型 ($p<.001$) が、それぞれ有意であった。

Table 3-1 は、性差と父の類型の AB 集計である。残差分析によれば有意に、父親は男子に PM 型が 42.6% と多く、女子には M 型 28.6%, pm 型 35.3% と多い。

Table 3-2 の AC 集計の残差分析によれば、母親には有意に男子 (15.7%) より女子 (25.6%) に M 型が多い。

Table 3-3 は、父親と母親の類型間の連関表である。残差分析によれば、父親と母親は同一類型が有意に多く、父親が PM 型のとき母親も PM 型 (76.2%)、父親が P 型のとき母親も P 型 (43.9%)、あるいは父親が M 型のとき母親も M 型 (56.5%)、父親が pm 型のとき母親も pm 型 (63.2%) と子どもが認知する場合が多い。

また、父親が PM 型のとき母親が pm 型 (0.0%)、また父親が P 型のとき母親の M 型は (0.0%) といずれも全くみられない。さらに父親が M 型で母親が P 型 (3.2%)、父親が pm 型で母親が PM 型 (6.6%) という組み合わせは極めて少ない。このことより、両親が養育行動として正反対の行動や態度を示す類型となることは少ないことがわかる。

Table 3-4 を見ると、父親が PM 型のとき男女とも母親は PM 型が多い (男子 77.2%; 女子

74.2%)。父親が P 型のときの母親は男子は pm 型 (58.4%) が多いが、女子は P 型 (58.8%) が多い。父親が M 型のとき男女とも母親は M 型が多い (男子 54.2%, 女子 57.9%)。父親が pm 型のときの母親は男女とも pm 型が多い (男子 75.9%, 女子 55.3%)。特に男子に顕著である。

2 基本的生活習慣

〈基本的生活習慣項目の因子分析〉

基本的生活習慣の 40 項目について直接バリマックス法による因子分析を行った。分析手続きは、先の両親の養育態度項目の因子分析と同じである。

Table 4 は、因子負荷量が全体的に小さいため、絶対値.300 以上のものをゴシック体で示した。それによると、第 1 因子に高い負荷を示す項目は、Q38 自転車でふざけない、Q18 道にゴミをすてない、Q39 狭い所でふざけない、Q28 規則を守る、Q37 列を広げて歩かない、Q35 公共物を大切に、Q40 信号を守る、Q25 ごめんなさいと謝る、Q19 回りのゴミを拾う、Q23 言葉使い、Q17 机の中の整理、Q11 ハンカチを持っていく、Q34 鉛筆などを大切に、Q20 食べ物に注意、Q31 手伝いをする、Q4 爪を清潔に、という 16 項目であった。第 2 因子では、Q10 下着を取り替える、Q9 風呂にはいる、Q5 耳の中を清潔に、という 3 項目、第 3 因子では、Q13 朝自分で起きる、Q12 早寝早起き、Q15 大便の時間が決まっているという 3 項目、第 4 因子では、Q23 言葉づかい、Q22 人の話を静かに聞く、という 2 項目、第 5 因子では、Q3 髪を清潔に、Q1 朝顔を洗う、Q8 手をハンカチで拭くという 3 項目、第 6 因子では、Q25 ごめんなさいと謝る、Q24 有り難うという、Q30 大きい声で発表するという 3 項目であった。

第 1 因子は、主に安全、身の整理整頓に関する項目である。このうち、Q25 ごめんなさいという項目は第 6 因子に、Q23 言葉使いの項目は第 4 因子にも高く負荷していた。

第 2 因子は、主に清潔に関する項目で、第 3 因子は、起床に関する項目である。第 4 因子は、第 1 因子からの Q23 と Q22 から成り、対話での礼儀に関する項目、第 5 因子は、清潔に関する項目、第 6 因子は、第 1 因子からの Q25 を含めて、他人への感謝と謝罪に関する項目である。

以上のことから、Q23 と Q25 を除く第 1 因子 14 項目を「安全や身の整理整頓の因子」、第 2 因子と第 5 因子をまとめた 6 項目を「清潔さの因子」、第 3 因子の 3 項目を「起床の因子」、第 4 因子の 2 項目を「対話での礼儀の因子」、第 6 因子の 3 項目を「他人への感謝と謝罪の因子」と命名してよいだろう。

〈基本的生活習慣の一般的傾向〉

基本的生活習慣項目は、3 段階評定なので中間点は 2 点である。但し、ここでは低得点ほど望ましい方向を示す。全体平均は因子分析結果とともに Table 4 に示した。

ここで便宜上平均点が 1.80 以上の高い項目を、基本的生活習慣が相対的に身につけていない項目として判断すると、Q12 早寝早起き (平均 1.82, 選択肢 1 を選んだ比率 31.1%以下実践率と呼ぶ、以下括弧内同順)、Q13 朝自分で起きる (1.83, 31.5%)、Q15 決まった時間に用便をする (2.21, 17.6%)、Q19 ゴミを拾う (2.04, 10.5%)、Q22 人の話を静かに聞く (1.83, 21.3%)、Q37 学校の行き帰りに列を広げて歩かない (1.81, 30.0%) の 6 項目である。故に、多くの子どもが、早寝早起きができず、家族の人から朝起こされることが多く、学校に行くまでの時間的余裕がなく、大便の時間が決まっていないというように、一日の生活のリズムが整っていない子どもが多いと考えられる。

平均値が 1.20 以下を示す項目を、ある程度の習慣ができている項目とみなすと、Q1 朝起きた

Table 4 基本的生活習慣項目の全体平均と標準偏差およびバリマックス因子負荷量

No.	項目の主旨	全体		直接バリマックス因子						共通性 h ²
		平均	S D	1	2	3	4	5	6	
38	自転車でふざけない	1.62	0.61	.698	.074	-.027	-.049	.104	-.041	.508
18	道にゴミをすてない	1.78	0.61	.588	-.040	.061	.045	-.031	-.043	.355
39	狭い所でふざけない	1.53	0.60	.582	-.034	.082	-.034	.156	-.169	.400
28	学校の規則を守る	1.76	0.52	.568	-.030	.157	.023	.027	.149	.371
37	列を広げて歩かない	1.81	0.61	.561	-.036	.052	-.172	-.177	.005	.380
35	公共物を大切にする	1.42	0.53	.528	.027	.026	.071	-.044	.190	.323
40	信号を守る	1.27	0.49	.523	.128	-.108	-.050	-.038	.096	.315
25	ごめんなさいという	1.33	0.49	.483	.107	-.106	.186	-.046	.407	.458
19	周りのゴミを拾う	2.04	0.50	.480	.152	.075	.047	-.021	.116	.275
23	目上の人との言葉使い	1.78	0.63	.474	.073	.028	.466	-.031	-.000	.449
17	学校の机の中の整理	1.67	0.64	.433	.043	-.229	.015	.121	-.048	.259
11	ハンカチを持っていく	1.48	0.54	.431	.025	-.091	.014	.349	-.088	.325
34	鉛筆などを大切にする	1.52	0.55	.398	.104	.065	.141	-.023	.042	.196
20	口の中の食物に注意	1.58	0.60	.395	.096	-.132	.138	.158	-.101	.237
31	家の手伝いをする	1.67	0.58	.341	.116	.063	-.074	.029	-.014	.140
4	爪を清潔にする	1.66	0.57	.336	.270	.134	-.093	.261	-.047	.283
36	他人の持ち物と区別	1.25	0.45	.297	.261	-.097	.032	-.028	.132	.185
33	お金を無駄使いしない	1.44	0.57	.293	-.025	.069	.040	-.028	.207	.137
32	宿題を自分からする	1.53	0.57	.222	.084	.074	.217	.026	.075	.115
27	ただいまという	1.15	0.45	.212	.150	.053	.127	.022	.061	.091
6	食事の前に手を洗う	1.34	0.50	.170	.151	-.033	-.068	.130	.166	.102
10	下着を取り替える	1.09	0.28	-.029	.711	-.017	.112	.083	-.065	.530
9	お風呂にはいる	1.13	0.34	.065	.707	.022	-.098	-.118	.070	.533
5	耳の中を清潔にする	1.49	0.57	.236	.379	-.041	.012	.232	.010	.255
16	身支度を自分でする	1.13	0.39	.147	.201	.009	-.043	.147	.042	.087
13	朝自分で起きる	1.83	0.66	.083	.032	.616	-.021	-.036	-.089	.398
12	早寝早起きをする	1.82	0.64	.258	.010	.583	.015	-.003	.041	.409
15	大便が決まっている	2.21	0.72	.189	-.018	.391	.018	.135	.115	.221
22	人の話を静かに聞く	1.83	0.47	.293	-.007	-.028	.591	.003	.001	.436
14	朝ご飯をたべる	1.15	0.39	.169	.047	-.109	.187	.096	-.038	.088
26	おはようという	1.44	0.59	.061	.115	.156	.173	.058	.107	.086
3	髪の毛を清潔にする	1.36	0.53	.185	.264	-.087	-.022	.423	.066	.295
1	朝、顔を洗う	1.14	0.35	.242	.238	-.090	-.160	.410	.062	.321
8	手をハンカチでふく	1.41	0.56	.351	.056	-.046	-.083	.407	-.081	.308
2	寝る前に歯をみがく	1.33	0.49	.098	.091	-.224	.186	.299	.014	.192
7	トイレの後、手を洗う	1.08	0.29	.112	.099	-.025	-.162	.190	-.041	.087
24	ありがとうという	1.24	0.43	.292	.196	-.072	.050	.090	.499	.389
30	大きな声で発表する	1.79	0.57	.064	.030	.273	.100	.003	.346	.209
21	嫌いな物でも食べる	1.71	0.65	.049	-.001	.215	.190	.010	.258	.152
29	学校に遅刻しない	1.13	0.37	.117	-.014	-.024	.034	-.167	.241	.102
因子分散				4.918	1.691	1.303	1.004	1.128	0.957	11.00
寄与率 (%)				12.29	4.23	3.26	2.51	2.82	2.39	27.50

ら顔を洗う(1.14, 85.9%), Q7トイレの後、手を洗う(1.08, 92.1%), Q9お風呂に入る(1.13, 86.5%), Q10下着をかえる(1.09, 91.4%), Q14朝ご飯をきちんと食べている(1.15, 86.1%), Q16朝学校に行く身じたくを自分でする(1.13, 88.8%), Q27学校から帰ったら「ただいま」という(1.15, 88.4%), Q29学校に遅刻しないように行く(1.13, 87.6%)の8項目である。Q1, Q7, Q9, Q10は、清潔さに関する項目であり、早めに低学年で身につけておくべき習慣であろう。これらの項目は、本調査の被験者が4~6年生という中学年以上の児童であるため、既に習慣化されていると考えられ、学年差は見られない。Q14の朝食を食べないという子どもは3人にすぎず、86.1%

Table 5-1 性別および学年別の基本的な生活習慣項目における実践率

No.	項目の主旨 / 人数	全体 267	男子 134	女子 133	レンジ R	χ^2 (df=1)	4年 68	5年 91	6年 108	レンジ R	χ^2 (df=2)
1	朝、顔を洗う	85.8 ^u	76.9 ⁻⁻	94.7 ⁺⁺	17.8	18.68**	86.8	86.8	84.3	2.5	0.34
2	寝る前に歯をみがく	67.8 ^u	59.0 ⁻⁻	76.7 ⁺⁺	17.7	9.71**	75.0	64.8	65.7	10.2	2.26
3	髪の毛を清潔にする	66.7 ^u	55.2 ⁻⁻	78.2 ⁺⁺	23.0	16.10**	58.8	61.5	75.9 ⁺⁺	17.1	7.28**
4	爪を清潔にする	39.0	37.3	40.6	3.3	0.30	42.6	27.5 ⁻⁻	46.3 ⁺	18.8	8.08*
5	耳の中を清潔にする	54.3	44.8 ⁻⁻	63.9 ⁺⁺	19.1	9.91**	51.5	51.6	58.3	6.8	1.19
6	食事の前に手を洗う	66.7 ^u	62.7	70.7	8.0	1.92	54.4 ⁻⁻	68.1	73.1 ⁺	18.7	6.59*
7	トイレの後、手を洗う	92.1 ^u	88.1 ⁻⁻	96.2 ⁺	8.1	6.46*	94.1	93.4	89.8	4.3	1.36
8	手をハンカチでふく	62.9	52.2 ⁻⁻	73.7 ⁺⁺	21.5	13.31**	64.7	56.0 [']	67.6	11.6	2.93
9	お風呂にはいる	86.5 ^u	84.3	88.7	4.4	1.11	79.4 ⁻⁻	87.9	89.8	10.4	3.84
10	下着を取り替える	91.4 ^u	89.6	93.2	3.6	1.16	91.2	86.8 [']	95.4 ⁺	8.6	4.70 ⁺
11	ハンカチを持っていく	53.6	32.8 ⁻⁻	74.4 ⁺⁺	41.6	47.93**	58.8	52.7	50.9	7.9	1.09
12	早寝早起きをする	31.1 _L	41.0 ⁺⁺	21.1 ⁻⁻	19.9	12.63**	38.2	30.8	26.9	11.3	2.50
13	朝自分で起きる	31.5 _L	42.5 ⁺⁺	20.3 ⁻⁻	22.2	15.57**	41.2 ⁺	25.3	30.6	15.9	4.56
14	朝ご飯をたべる	86.1 ^u	85.1	87.2	2.1	0.26	91.2	89.0	80.6 ⁻⁻	10.6	4.86 ⁺
15	大便が決まっている	17.6 _L	26.9 ⁺⁺	8.3 ⁻⁻	18.6	16.63**	14.7	19.8	17.6	5.1	0.70
16	身支度を自分でする	88.8 ^u	85.8	91.7	5.9	2.36	85.3	91.2	88.9	5.9	1.34
17	学校の机の中を整理	42.3	23.1 ⁻⁻	61.7 ⁺⁺	38.6	41.78**	38.2	42.9	44.4	6.2	0.68
18	道にゴミをすてない	31.8 _L	30.6	33.1	2.5	0.19	45.6 ⁺⁺	31.9	23.1 ⁻⁻	22.5	9.57*
19	周りのゴミを拾う	10.5 _L	10.4	10.5	0.1	0.00	16.2 ⁺	8.8	8.3	7.9	2.29
20	口の中の食物に注意	48.3	40.3 ⁻⁻	56.4 ⁺⁺	16.1	6.95**	47.1	48.4	49.1	2.0	0.07
21	嫌いな物でも食べる	39.7	52.2 ⁺⁺	27.1 ⁻⁻	25.1	17.91**	47.1	41.8	33.3 [']	13.8	3.54
22	人の話を静かに聞く	21.3 _L	24.6	18.0	6.6	1.73	17.6	25.3	20.4	7.7	1.44
23	目上の人との言葉使い	33.0 _L	33.6	32.3	1.3	0.05	30.9	26.4	39.8 ⁺	13.4	4.22
24	ありがとうという	75.7 ^u	69.4 ⁻⁻	82.0 ⁺	12.6	5.76*	64.7 ⁻⁻	81.3	77.8	16.6	6.02*
25	ごめんなさいという	67.8 ^u	64.2	71.4	7.2	1.61	63.2	69.2	69.4	6.2	0.86
26	おはようという	60.7	56.7	64.7	8.0	1.77	55.9	69.2 ⁺	56.5	13.3	4.32
27	ただいまという	88.4 ^u	88.8	88.0	0.8	0.05	88.2	85.7	90.7	5.0	1.22
28	学校の規則を守る	28.5 _L	29.9	27.1	2.8	0.25	23.5	28.6	31.5	8.0	1.32
29	学校に遅刻しない	87.6 ^u	88.1	87.2	0.9	0.04	85.3	89.0	88.0	3.7	0.50
30	大きな声で発表する	28.5 _L	39.6 ⁺⁺	17.3 ⁻⁻	22.3	16.59**	33.8	29.7	24.1	9.7	2.05
31	家の手伝いをする	39.0	30.6 ⁻⁻	47.4 ⁺⁺	16.8	7.94**	41.2	36.3	39.8	4.9	0.45
32	宿題を自分からする	50.9	47.8	54.1	6.3	1.09	38.2 ⁻⁻	65.9 ⁺⁺	46.3	27.7	13.71**
33	お金を無駄使いしない	59.9	58.2	61.7	3.5	0.33	52.9	63.7	61.1	10.8	1.98
34	鉛筆などを大切に使う	50.6	47.8	53.4	5.6	0.85	42.6	46.4	59.3 ⁺	16.7	5.71 ⁺
35	公共物を大切に使う	60.3	56.7	63.9	7.2	1.44	61.8	57.1	62.0	4.9	0.57
36	他人の持ち物と区別	76.0 ^u	67.9 ⁻⁻	84.2 ⁺⁺	16.3	9.89**	72.1	75.8	78.7	6.6	1.00
37	列を広げて歩かない	30.0 _L	32.1	27.8	4.3	0.58	27.9	28.6	32.4	4.5	0.52
38	自転車でふざけない	44.9	32.1 ⁻⁻	57.9 ⁺⁺	25.8	18.18**	50.0	45.1	41.7	8.3	1.17
39	狭い所でふざけない	52.8	38.8 ⁻⁻	66.9 ⁺⁺	28.1	21.96**	58.8	50.5	50.9	8.3	1.33
40	信号を守る	75.3 ^u	65.7 ⁻⁻	85.0 ⁺⁺	19.3	13.64**	80.9	73.6	73.1	7.8	1.61

(注) U: 全体の2/3以上の実践率、L: 全体の1/3以下の実践率の項目。

ゴシック体は最大値、下線は最小値。レンジ(R) = 最大値-最小値。

尤度比検定による χ^2 の有意水準は、** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$ 残差分析による有意水準は、++、-- $p < .01$, +、- $p < .05$, ^、' $p < .10$

が毎日きちんと食べていた。

Table 5-1 に示すように、基本的な生活習慣 40 項目について尤度比検定で有意な性差が見いだされた項目は、20 項目であった。この 20 項目のうち、Q12 早寝早起き(実践率男子 41.0%, 女子 21.1%以下括弧内は同順)、Q13 朝自分で起きる(42.5%, 20.3%), Q15 決まった時間に大便をする(26.9%, 8.3%), Q21 嫌いな物でも食べる(52.2%, 27.1%), Q30 授業中大きな声で発表する(39.6%, 17.3%)という 5 項目が、男子が女子よりも有意に実践率が高かった。

Table 5-2 両親の類型と基本的生活習慣項目の実践率(%)

No.	項目の主旨	父 親				レンジ R	χ^2 (df=3)	母 親				レンジ R	χ^2 (df=3)
		PM	P	M	pm			PM	P	M	pm		
1	朝、顔を洗う	85.2	<u>73.2</u>	95.2 ⁺	85.5	22.0	10.23*	87.1	<u>77.3</u>	90.9	85.3	13.6	3.76
2	寝る前に歯をみがく	70.5	<u>56.1</u>	72.6	67.1	16.5	3.42	72.0	70.5	76.4	<u>54.7</u>	21.7	8.49*
3	髪の毛を清潔にする	72.7	<u>56.1</u>	74.2	59.2	18.1	6.97 ⁺	75.3 ⁺	63.6	72.7	<u>53.3</u>	22.0	10.08*
4	爪を清潔にする	46.6	<u>24.4</u>	48.4	30.3	24.0	10.78*	46.2	<u>31.8</u>	41.8	32.0	14.4	4.76
5	耳の中を清潔にする	52.3	<u>34.1</u>	74.2 ⁺⁺	51.3	40.1	17.59**	54.8	<u>45.5</u>	69.1	48.0	23.6	7.60 ⁺
6	食事の前に手を洗う	69.3	<u>48.8</u>	77.4 ⁺	64.5	28.6	9.44*	65.6	61.4	80.0	<u>61.3</u>	18.7	6.34 ⁺
7	トイレの後、手を洗う	90.9	<u>87.8</u>	96.8	92.1	9.0	3.43	91.4	90.9	96.4	<u>90.7</u>	5.7	2.04
8	手をハンカチでふく	65.9	<u>48.8</u>	69.4	61.8	20.6	4.90	59.1	<u>56.8</u>	78.2 ⁺⁺	60.0	21.4	7.47 ⁺
9	お風呂にはいる	86.4	<u>82.9</u>	91.9	84.2	9.0	2.54	92.5 ⁺	84.1	85.5	<u>81.3</u>	11.2	5.13
10	下着を取り替える	95.4	<u>85.4</u>	93.5	88.2	10.0	5.10	96.8 ⁺	88.6	92.7	<u>85.3</u>	11.5	7.88*
11	ハンカチを持っていく	52.3	<u>39.0</u>	61.3	56.6	22.3	5.32	48.4	<u>43.2</u>	65.5 ⁺	57.3	22.3	6.53 ⁺
12	早寝早起きをする	45.5 ⁺⁺	26.8	25.8	<u>21.1</u>	24.4	12.98**	41.9 ⁺⁺	<u>15.9</u>	25.5	30.7	26.0	11.05*
13	朝自分で起きる	33.0	36.6	32.3	<u>26.3</u>	10.3	1.56	36.6	27.3	21.8	34.7	14.8	4.35
14	朝ご飯をたべる	92.0	85.4	<u>82.3</u>	82.9	9.7	4.35	91.4	90.9	89.1	<u>74.7</u>	16.7	10.71*
15	大便が決まっている	26.1 ⁺	17.1	21.0	<u>5.3</u>	20.8	14.88**	23.7	13.6	18.2	<u>12.0</u>	11.7	4.48
16	身支度を自分でする	85.2	92.7	93.5	86.8	8.3	3.65	95.7 ⁺⁺	<u>75.0</u>	85.5	90.7	20.7	13.03**
17	学校の机の中の整理	43.2	<u>31.7</u>	51.6	39.5	19.9	4.40	43.0	36.4	54.5 ⁺	<u>36.0</u>	18.5	5.23
18	道にゴミをすてない	35.2	29.3	33.9	<u>27.6</u>	7.6	1.34	38.7	29.5	36.4	<u>21.3</u>	17.4	6.67 ⁺
19	周りのゴミを拾う	14.8	<u>2.4</u>	16.1	5.3	13.7	10.01*	11.8	<u>2.3</u>	20.0 ⁺⁺	6.7	17.7	10.30*
20	口の中の食物に注意	47.7	<u>41.5</u>	54.8	47.4	13.3	1.87	49.5	<u>34.1</u>	60.0	46.7	25.9	6.79 ⁺
21	嫌いな物でも食べる	61.4 ⁺⁺	34.1	<u>25.8</u>	28.9	35.6	26.42**	54.8 ⁺⁺	34.1	36.4	<u>26.7</u>	28.1	15.12**
22	人の話を静かに聞く	27.3	17.1	22.6	<u>15.8</u>	11.5	3.76	28.0	<u>13.6</u>	25.5	14.7	14.4	6.70 ⁺
23	目上の人との言葉使い	38.6	36.6	35.5	<u>22.4</u>	16.2	5.80	39.8	29.5	32.7	<u>26.7</u>	13.1	3.53
24	ありがとうという	81.8	75.6	75.8	<u>68.4</u>	13.4	3.97	77.4	81.8	83.6	<u>64.0</u>	19.6	8.27*
25	ごめんなさいという	77.3 ⁺	68.3	69.4	<u>55.3</u>	22.0	9.11*	69.9	70.5	76.4	<u>57.3</u>	19.1	5.88
26	おはようという	76.1 ⁺⁺	<u>43.9</u>	64.5	48.7	32.2	18.94**	77.4 ⁺⁺	43.2	70.9	<u>42.7</u>	34.7	29.67**
27	ただいまという	95.5 ⁺	85.4	88.7	<u>81.6</u>	13.9	8.75*	96.8 ⁺⁺	86.4	92.7	<u>76.0</u>	20.8	18.87**
28	学校の規則を守る	34.1	24.4	33.9	<u>19.7</u>	14.4	5.58	36.6 ⁺	22.7	30.9	<u>20.0</u>	16.6	6.58 ⁺
29	学校に遅刻しない	90.9	90.2	88.7	<u>81.6</u>	9.3	3.57	92.5	88.6	<u>83.6</u>	84.0	8.9	3.93
30	大きな声で発表する	42.0 ⁺⁺	31.7	19.4	<u>18.4</u>	23.6	14.44**	39.8 ⁺⁺	<u>20.5</u>	23.6	22.7	19.3	8.91*
31	家の手伝いをする	43.2	<u>31.7</u>	40.3	36.8	11.5	1.78	41.9	38.6	40.0	<u>34.7</u>	7.2	0.96
32	宿題を自分からする	48.9	46.3	66.1 ⁺⁺	<u>43.4</u>	22.7	8.06*	53.8	47.7	63.6 ⁺⁺	<u>40.0</u>	23.6	7.69 ⁺
33	お金を無駄使いしない	61.4	<u>53.7</u>	69.4	53.9	15.7	4.23	62.4	<u>50.0</u>	69.1	56.0	19.1	4.47
34	鉛筆などを大切に使う	54.5	<u>41.5</u>	58.1	44.7	16.6	4.36	59.1 ⁺	<u>29.5</u>	58.2	46.7	29.6	12.49**
35	公共物を大切に使う	65.9	<u>51.2</u>	69.4	51.3	18.2	7.27 ⁺	68.8	<u>45.5</u>	70.9	50.7	25.4	12.39**
36	他人の持ち物と区別	76.1	73.2	85.5 ⁺	<u>69.7</u>	15.8	5.14	80.6	<u>70.5</u>	80.0	70.7	10.1	3.48
37	列を広げて歩かない	38.6 ⁺	29.3	30.6	<u>19.7</u>	18.9	7.14 ⁺	43.0 ⁺⁺	22.7	30.9	<u>17.3</u>	25.7	14.58**
38	自転車でふざけない	39.8	51.2	53.2	40.8	13.4	3.85	43.0	<u>40.9</u>	45.5	49.3	8.4	1.02
39	狭い所でふざけない	50.0	53.7	62.9	<u>47.4</u>	15.5	3.76	54.8	52.3	61.8	<u>44.0</u>	17.8	4.31
40	信号を守る	73.9	73.2	83.9	<u>71.1</u>	12.8	3.59	76.3	70.5	85.5 ⁺	69.3	16.2	5.38

(注) ゴシック体は最大値、下線は最小値。レンジ(R)=最大値-最小値。

尤度比検定による χ^2 の有意水準は、** $p<.01$, * $p<.05$, + $p<.10$ 残差分析による有意水準は、++ $p<.01$, + $p<.05$, , $p<.10$

他方、残りの15項目については、すべて女子が男子より実践率が高かった。これらの項目は主に清潔、安全、身の回りの整理整頓に関する項目に多い。とくにQ11ハンカチを持っていく(男子32.8%, 女子74.4%), Q17机の中の整理(23.1%, 61.7%), Q39狭い所でふざけない(38.8%, 66.9%)で女子は顕著に実践率が高く、レンジが28.1%を超えている。

学年別で有意な差がみられた項目は6項目と少なく、Q3髪の毛を清潔に(6年75.9%), Q32宿題を自らする(5年65.9%)という2項目(残差分析による $p<.01$)、及びQ4爪を清潔に(6年46.3%), Q6自分で身支度する(6年73.1%), Q18道にゴミを捨てない(4年45.6%), Q24ありがとうと言

う(5年 81.3%)という4項目($p<.05$)であった。学年が上昇するほど定着していると考えられる項目は、Q3 髪を清潔に(4年 58.8, 5年 61.5, 6年 75.9%, 以下同順)、Q6 食前の手洗い(54.4, 68.1, 73.1%)、Q28 学校の規則を守る(23.5, 28.6, 31.5%)という3項目である。しかし、逆に6年生になるほど実践率の低下度合いが大きい項目は、Q18 道や公園にゴミを捨てない(6年 23.1%)という項目である。また、Q24 ありがとうと言う(5年 81.3%)、Q32 宿題を自分からする(5年 65.9%)という2項目は、5年生が他の学年よりも有意に多く実践していた。この2項目は、学年という発達の要因よりも、むしろ学級担任の指導等の効果に起因するのかもしれない。

〈両親の類型と基本的生活習慣の5要因〉

基本的生活習慣の5つの因子について、各因子に含まれる項目の得点合計を要因得点として検討した。すなわち、Q38, Q18, Q39, Q28, Q37, Q35, Q40, Q19, Q17, Q11, Q34, Q20, Q31, Q4の14項目の合計を「安全と身の周りの整理整頓」の要因得点、Q10, Q9, Q5, Q3, Q1, Q8の6項目の合計を「清潔さ」の要因得点、Q13, Q12, Q15の3項目の合計を「起床」の要因得点、Q22, Q23の2項目の合計を「対話での礼儀」の要因得点、Q24, Q25, Q30の3項目の合計を「他人への感謝と謝罪」の要因得点として算出した。

性別では、5要因のうち最初の3要因で有意な F 比がえられた。安全と身の周りの整理整頓の要因は、男子(平均 24.28)よりも女子(21.31)が習慣化されていた($F=32.645$, $p<.01$)。清潔さの要因でも、女子(7.09)が男子(8.16)より望ましい習慣化がなされていた($F=34.413$, $p<.01$)。しかし起床要因については男子(5.43)が女子(6.30)より起床時間が安定している($F=25.734$, $p<.01$)。他方、対話での礼儀要因(男子 3.60, 女子 3.62)や他人への感謝と謝罪要因(男子 4.32, 女子 4.42)では性差はみられなかった。

学年別の分析では、5つの要因のいずれも学年差はみられなかった。

〈父親の類型と基本的生活習慣の5要因〉

基本的生活習慣項目の5要因得点についてそれぞれ、両親の類型ごとに1要因分散分析を行った(Table 5-3, 5-4の下部に示す)。また、Table 5-5に性別×類型の2要因分散分析の結果を示した。Table 5-6には父母の16類型ごとの平均値と1要因分散分析結果を示した。なお要因得点は、個々の基本的生活習慣項目と同様に得点の低いほど望ましい習慣的行動を示す。2要因分散分析によれば、性差と類型の交互作用は父母別の5要因のすべてについて有意でなかったため、以下は主として1要因分散分析の結果を検討していく。

安全と身の周りの整理整頓の要因について、Table 5-5から平均値の低いものから順に示すと、女子 PM, 女子 M, 女子 P, 女子 pm, 男子 PM, 男子 M, 男子 P, 男子 pm である。1要因分散分析の結果、父親の類型間は5%水準で有意であった。しかし Tukey 法による対比較では有意差はみられなかったが、P型(23.9)では習慣化が低く、M型(21.8)が最も安全と身の周りの整理整頓の要因が習慣化されている方向にあった。

清潔さの要因について、平均値の低い順に示すと、女子 M, 女子 PM, 女子 pm, 男子 PM, 女子 P, 男子 M, 男子 pm, 男子 P 型である。Table 5-3の分散分析の結果は、父親の類型別では1%水準で有意差がみられた。父親の類型では、PM型(7.52)、M型(7.05)がP型(8.39)よりも優れ、またM型がpm型(7.80)よりも清潔さ要因で有意に望ましい習慣化を示した。

起床要因については、平均値の低い順に、男子 PM, 男子 M, 男子 P, 女子 PM, 男子 pm, 女子 P, 女子 M, 女子 pm 型であり、1要因分散分析では、類型間に1%水準の有意な F 比が得

Table 5-3 父親の類型と基本的生活習慣項目の平均値と1要因分散分析結果

No.	項目の主旨	平均				標準偏差				F 比 ^a	Tukey法による対比較
		PM	P	M	pm	PM	P	M	pm		
1	朝、顔を洗う	1.15	1.27	1.05	1.14	0.35	0.44	0.21	0.35	3.353*	P>M
2	寝る前に歯をみがく	1.31	1.46	1.29	1.33	0.49	0.55	0.49	0.47	1.186	
3	髪の毛を清潔にする	1.30	1.51	1.26	1.43	0.50	0.63	0.44	0.55	2.853*	ns.
4	爪を清潔にする	1.58	1.85	1.56	1.72	0.58	0.57	0.59	0.50	3.148*	P>M
5	耳の中を清潔にする	1.53	1.71	1.27	1.51	0.60	0.55	0.48	0.55	5.397**	P, PM, pm>M
6	食事の前に手を洗う	1.32	1.54	1.23	1.37	0.49	0.55	0.42	0.51	3.422*	P>M
7	トイレの後、手を洗う	1.09	1.12	1.03	1.09	0.29	0.33	0.18	0.33	0.933	
8	手をハンカチでふく	1.36	1.59	1.32	1.43	0.53	0.62	0.50	0.59	2.090	
9	お風呂にはいる	1.14	1.17	1.08	1.16	0.34	0.38	0.27	0.36	0.782	
10	下着を取り替える	1.05	1.15	1.06	1.12	0.21	0.35	0.25	0.32	1.711	
11	ハンカチを持っていく	1.51	1.63	1.40	1.43	0.56	0.53	0.52	0.50	1.848	
12	早寝早起きをする	1.64	1.80	1.85	2.01	0.64	0.55	0.59	0.66	4.988**	pm>PM
13	朝自分で起きる	1.77	1.73	1.87	1.92	0.62	0.63	0.71	0.66	1.091	
14	朝ご飯をたべる	1.09	1.17	1.19	1.17	0.32	0.44	0.43	0.38	1.056	
15	大便が決まっている	1.98	2.20	2.18	2.51	0.71	0.71	0.75	0.60	8.200**	pm>P, M, PM
16	身支度を自分でする	1.17	1.07	1.10	1.14	0.43	0.26	0.39	0.39	0.790	
17	学校の机の中を整理する	1.68	1.73	1.60	1.68	0.67	0.54	0.68	0.61	0.417	
18	道などにゴミをすてない	1.70	1.88	1.76	1.84	0.57	0.67	0.61	0.61	1.086	
19	周りのゴミを拾う	1.95	2.10	1.97	2.16	0.50	0.37	0.54	0.49	2.979*	pm>PM
20	口の中の食物に注意	1.55	1.71	1.55	1.57	0.54	0.67	0.66	0.57	0.768	
21	嫌いな物でも食べる	1.43	1.85	1.85	1.84	0.58	0.72	0.59	0.63	8.793**	P, M, pm>PM
22	人の話を静かに聞く	1.76	1.93	1.81	1.87	0.50	0.51	0.47	0.41	1.400	
23	目上の人との言葉使い	1.68	1.80	1.71	1.95	0.59	0.71	0.58	0.63	2.840*	pm>PM
24	ありがとうという	1.18	1.24	1.24	1.32	0.39	0.43	0.43	0.46	1.325	
25	ごめんなさいという	1.23	1.34	1.31	1.47	0.42	0.52	0.46	0.55	3.538*	pm>PM
26	おはようという	1.24	1.63	1.40	1.61	0.43	0.62	0.58	0.65	7.538**	P, pm>PM
27	ただいまという	1.07	1.20	1.16	1.22	0.33	0.50	0.48	0.50	1.782	
28	学校の規則を守る	1.70	1.80	1.69	1.84	0.55	0.50	0.53	0.46	1.422	
29	学校に遅刻しない	1.09	1.10	1.13	1.21	0.29	0.30	0.38	0.47	1.596	
30	大きな声で発表する	1.66	1.71	1.89	1.92	0.62	0.51	0.51	0.53	3.928**	pm, M>PM
31	家の手伝いをする	1.60	1.71	1.65	1.74	0.55	0.51	0.57	0.64	0.828	
32	宿題を自分からする	1.55	1.54	1.35	1.64	0.56	0.50	0.51	0.62	3.066*	pm>M
33	お金を無駄づかいしない	1.43	1.51	1.34	1.50	0.58	0.59	0.54	0.57	1.141	
34	鉛筆などを大切に使う	1.47	1.61	1.42	1.62	0.52	0.54	0.49	0.61	2.175	
35	公共物を大切に使う	1.35	1.54	1.32	1.50	0.50	0.59	0.50	0.53	2.445	
36	他人の持ち物と区別する	1.25	1.29	1.15	1.30	0.46	0.51	0.35	0.46	1.604	
37	列を広げて歩かない	1.68	1.88	1.81	1.92	0.59	0.67	0.62	0.56	2.333	
38	自転車でふざけない	1.67	1.61	1.53	1.64	0.60	0.69	0.61	0.58	0.658	
39	狭い所でふざけない	1.56	1.49	1.42	1.61	0.60	0.55	0.58	0.63	1.220	
40	信号を守る	1.28	1.34	1.16	1.30	0.50	0.61	0.37	0.49	1.435	
要因											
F1	安全と身辺の整理整頓	22.3	23.9	21.8	23.6	4.37	4.87	4.31	3.81	3.096*	ns.
F2	清潔要因	7.52	8.39	7.05	7.80	1.44	1.91	1.38	1.46	6.861**	P>PM, M; pm>M
F3	起床の要因	5.39	5.73	5.90	6.45	1.35	1.27	1.54	1.44	7.717**	pm>PM, P
F4	対話での礼儀	3.44	3.73	3.52	3.82	0.90	1.10	0.89	0.85	2.638*	pm>PM
F5	他人への感謝と謝罪	4.07	4.29	4.44	4.71	0.97	0.99	0.96	1.13	5.449**	pm>PM

(注) ^a F比の自由度はdf=3/263, 有意水準は, ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$

Table 5-4 母親の類型と基本的生活習慣項目の平均値と1要因分散分析結果

No.	項目の主旨	平均				標準偏差				F比 ^a	Tukey法による対比較
		PM	P	M	pm	PM	P	M	pm		
1	朝、顔を洗う	1.13	1.23	1.09	1.15	0.34	0.42	0.29	0.35	1.313	
2	寝る前に歯をみがく	1.29	1.32	1.24	1.47	0.48	0.51	0.42	0.52	2.815*	pm>M
3	髪の毛を清潔にする	1.27	1.39	1.27	1.52	0.49	0.53	0.45	0.60	3.808*	pm>PM, M
4	爪を清潔にする	1.59	1.73	1.62	1.73	0.59	0.54	0.56	0.55	1.174	
5	耳の中を清潔にする	1.49	1.61	1.33	1.55	0.58	0.61	0.51	0.55	2.459	
6	食事の前に手を洗う	1.35	1.39	1.22	1.40	0.50	0.49	0.45	0.52	1.610	
7	トイレの後、手を洗う	1.10	1.09	1.04	1.09	0.33	0.29	0.19	0.29	0.588	
8	手をハンカチでふく	1.44	1.48	1.25	1.44	0.56	0.53	0.51	0.57	1.782	
9	お風呂にはいる	1.08	1.16	1.15	1.19	0.26	0.37	0.35	0.39	1.615	
10	下着を取り替える	1.03	1.11	1.07	1.15	0.18	0.32	0.26	0.35	2.523	
11	ハンカチを持っていく	1.53	1.64	1.36	1.43	0.52	0.61	0.52	0.49	2.633	
12	早寝早起きをする	1.68	1.95	1.82	1.92	0.64	0.52	0.54	0.73	2.845*	ns.
13	朝自分で起きる	1.76	1.77	1.96	1.85	0.66	0.52	0.63	0.72	1.216	
14	朝ご飯をたべる	1.09	1.11	1.13	1.27	0.28	0.38	0.38	0.47	3.387*	pm>PM
15	大便が決まっている	2.01	2.25	2.27	2.39	0.70	0.68	0.75	0.69	4.199*	pm>PM
16	身支度を自分でする	1.05	1.25	1.20	1.11	0.27	0.43	0.52	0.35	3.342*	P>PM
17	学校の机の中を整理する	1.69	1.68	1.55	1.73	0.67	0.55	0.66	0.62	0.968	
18	道などにゴミをすてない	1.69	1.82	1.67	1.96	0.60	0.61	0.54	0.62	3.589*	pm>PM, M
19	周りのゴミを拾う	2.00	2.09	1.91	2.15	0.49	0.36	0.55	0.51	2.837*	pm>M
20	口の中の食物に注意	1.56	1.77	1.44	1.59	0.60	0.63	0.56	0.59	2.611	
21	嫌いな物でも食べる	1.54	1.84	1.69	1.87	0.65	0.71	0.57	0.62	4.389**	pm, P>PM
22	人の話を静かに聞く	1.74	1.93	1.76	1.92	0.48	0.45	0.47	0.45	3.059*	pm>PM
23	目上の人との言葉使い	1.67	1.80	1.78	1.92	0.59	0.59	0.62	0.67	2.281	
24	ありがとうという	1.23	1.18	1.16	1.36	0.42	0.39	0.37	0.48	2.882*	pm>M
25	ごめんなさいという	1.30	1.32	1.24	1.45	0.46	0.51	0.42	0.55	2.348	
26	おはようという	1.23	1.59	1.33	1.71	0.42	0.54	0.54	0.69	12.298**	pm, P>PM
27	ただいまという	1.03	1.18	1.13	1.31	0.18	0.49	0.47	0.59	5.446**	pm>PM
28	学校の規則を守る	1.68	1.89	1.69	1.83	0.55	0.57	0.46	0.44	2.443	
29	学校に遅刻しない	1.08	1.11	1.20	1.17	0.26	0.32	0.48	0.41	1.670	
30	大きな声で発表する	1.67	1.93	1.84	1.84	0.59	0.58	0.53	0.52	2.745*	ns.
31	家の手伝いをする	1.62	1.66	1.65	1.73	0.57	0.56	0.58	0.60	0.509	
32	宿題を自分からする	1.46	1.59	1.38	1.68	0.50	0.61	0.52	0.61	3.676*	pm>PM, M
33	お金を無駄づかいしない	1.41	1.55	1.35	1.49	0.55	0.58	0.55	0.60	1.301	
34	鉛筆などを大切に使う	1.43	1.75	1.42	1.57	0.54	0.53	0.49	0.57	4.411**	P>PM, M
35	公共物を大切に使う	1.32	1.55	1.31	1.53	0.49	0.50	0.50	0.57	3.928**	pm>PM
36	他人の持ち物と区別する	1.20	1.32	1.20	1.29	0.43	0.51	0.40	0.46	1.116	
37	列を広げて歩かない	1.68	1.98	1.76	1.91	0.66	0.66	0.57	0.49	3.380*	P, pm>PM
38	自転車でござげない	1.62	1.66	1.62	1.60	0.59	0.60	0.62	0.65	0.085	
39	狭い所でござげない	1.49	1.50	1.40	1.68	0.58	0.54	0.53	0.68	2.592	
40	信号を守る	1.25	1.34	1.15	1.35	0.46	0.56	0.35	0.55	2.174	
要因											
F1	安全と身の整理整頓	22.2	24.1	21.6	23.8	4.47	3.66	4.29	4.25	4.859**	P>M; pm>PM, M
F2	清潔要因	7.44	7.98	7.16	7.99	1.36	1.69	1.45	1.71	4.190**	pm, P>M
F3	起床の要因	5.45	5.98	6.05	6.16	1.45	1.27	1.46	1.51	3.955**	pm>PM
F4	対話での礼儀	3.41	3.73	3.55	3.84	0.87	0.91	0.89	0.99	3.342*	pm>PM
F5	他人への感謝と謝罪	4.19	4.43	4.24	4.65	1.00	0.99	0.95	1.16	3.083*	pm>PM

(注) ^a F比の自由度はdf=3/263, 有意水準は** $p < .01$, * $p < .05$

Table 5-5 父親の類型と5つの基本的な生活習慣要因得点に平均値と2要因分散分析結果

要因	／	父母 類型	男 子				女 子				2 要因分散分析のF比*		
			PM	P	M	pm	PM	P	M	pm	性別	類型	交互作用
5.1 安全と身の整理整頓													
父	{	平均	23.37	25.33	23.71	25.66	20.32	21.82	20.66	22.30	37.270**	3.836*	0.048
		SD	4.54	5.18	4.98	3.91	3.24	3.49	3.33	3.11			
母	{	平均	23.44	25.67	23.71	25.05	20.36	22.92	20.21	22.26	33.519**	5.341**	0.110
		SD	4.76	3.86	4.63	4.80	3.28	3.05	3.45	2.80			
5.2 清潔													
父	{	平均	7.74	8.88	7.83	8.69	7.13	7.76	6.55	7.26	34.297**	7.192**	0.907
		SD	1.50	2.01	1.57	1.53	1.21	1.55	0.97	1.10			
母	{	平均	7.80	8.56	7.86	8.61	6.95	7.58	6.74	7.24	32.528**	4.173**	0.346
		SD	1.48	1.64	1.61	1.87	0.96	1.60	1.15	1.09			
5.3 起床													
父	{	平均	5.26	5.38	5.33	5.86	5.61	6.24	6.26	6.81	18.337**	4.220*	0.621
		SD	1.42	1.22	1.77	1.38	1.18	1.16	1.25	1.35			
母	{	平均	5.26	5.61	5.48	5.54	5.72	6.23	6.41	6.91	22.132**	2.853*	1.244
		SD	1.60	1.21	1.56	1.31	1.15	1.25	1.26	1.38			
5.4 対話での礼儀													
父	{	平均	3.39	3.83	3.79	3.66	3.55	3.59	3.34	3.91	0.335	1.371	1.870
		SD	0.93	1.18	0.96	0.84	0.84	0.97	0.80	0.85			
母	{	平均	3.41	3.61	3.48	3.90	3.41	3.81	3.59	3.76	0.125	2.377 ⁺	0.370
		SD	0.87	0.95	1.05	1.03	0.87	0.88	0.77	0.94			
5.5 他人への感謝と謝罪													
父	{	平均	4.04	4.38	4.29	4.86	4.13	4.18	4.53	4.62	0.042	4.152**	0.731
		SD	1.09	1.03	1.02	1.17	0.71	0.92	0.91	1.10			
母	{	平均	4.13	4.44	4.10	4.63	4.28	4.42	4.32	4.68	0.540	2.477 ⁺	0.152
		SD	1.04	1.07	1.02	1.24	0.93	0.93	0.90	1.05			

(注) ** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$ a; () はTukey法による平均対の比較結果

Table 5-6 両親の16類型と5つの基本的な生活習慣要因の平均と1要因分散分析結果

5-6.1 安全と身辺の整理整頓

父/母	PM	P	M	pm	検定
PM	22.03	24.44	22.17	-	$F=1.445$
P	22.57	23.61	-	24.75	ns.
M	21.93	27.00	21.37	22.27	
pm	23.80	23.93	21.38	23.81	

5-6.2 清潔さ

父/母	PM	P	M	p m	検定
PM	7.39	7.89	8.00	-	$F=2.232$
P	7.86	8.22	-	8.81	$p<.01$
M	7.29	8.00	6.91	7.00	$P-pm>PM-PM$
p m	8.00	7.73	7.00	7.94	" $>M-M$

5-6.3 起床

父/母	PM	P	M	pm	検定
PM	5.34	5.33	5.67	-	$F=2.318$
P	6.00	5.89	-	5.44	$p<.01$
M	5.79	5.50	5.97	5.91	$\text{pm}-\text{pm}>\text{PM}-\text{PM}$
pm	5.20	6.53	7.00	6.46	

5-6.4 対話での礼儀

父/母	PM	P	M	pm	検定
PM	3.42	3.89	3.25	-	$F=1.290$
P	3.14	3.72	-	4.00	ns.
M	3.50	3.50	3.54	3.45	
pm	3.40	3.67	4.00	3.88	

5-7.5 他人への感謝と謝罪

父/母	PM	P	M	pm	検定
PM	4.03	4.56	3.92	-	$F=2.442$
P	4.00	4.22	-	4.50	$p<.01$
M	5.00	4.50	4.37	3.91	$\text{pm}-\text{pm}>\text{PM}-\text{PM}$
pm	4.40	4.60	4.13	4.88	

(注) 分散分析後の平均対の比較は
Tukey法による。
16類型の人数は、Table 5.3に表示。

られた。ここでは、前述の2つの要因とは異なり、男子(5.46)が女子(6.23)より起床について望ましい習慣化を示している。女子は、PM型を除く3つのタイプが中間点の6点を超える高い得点を示した。女子の起床要因の不安定な習慣がうかがえる。父親の類型間では、PM型(5.39)とP型(5.73)が、pm型(6.45)よりも起床時間が有意に安定した習慣となっている。

対話での礼儀の要因については、1要因分散分析では父親の類型が有意で、pm型(3.82)が習慣化が最も低く、PM型(3.44)が最も習慣化されている。

他人への感謝と謝罪の要因については、男子PM、女子PM、女子P、男子M、男子P、女子M、女子pm、男子pm型の順に望ましい習慣化を示した。1要因分散分析の結果、類型の主効果は1%水準で有意であった。父親のPM型(4.07)が、pm型(4.74)よりも有意に望ましい習慣化がなされている。

以上のことから、安全と身の整理整頓の要因を除いたどの要因に関しても、PM型やM型の父親が、P型やpm型の父親よりも子どもに望ましい習慣を形成しているといえる。すなわち、父親のM次元の機能が高いことが、子どもの基本的生活習慣の形成に効果をもっているようだ。

〈母親の類型と基本的生活習慣の5要因〉

基本的生活習慣の5つの要因得点のそれぞれについて、1要因分散分析を行ったところ、Table 5-4の下部に示すように5つの要因すべてについて有意なF比が得られた。

安全と身の整理整頓の要因については母親の類型は1%水準で有意であった。父親の類型と同様にPM型(22.2)やM型(21.6)の母親では、P型やpm型の母親よりも有意に整理整頓などの望ましい習慣化がみられた。

清潔さの要因についても、類型間は1%水準で有意で、母親がM型(7.16)の場合、P型(7.98)、pm型(7.99)の母親よりも清潔への行動を実践している。

起床の要因については1%水準、対話での礼儀要因と他人への感謝と謝罪要因では5%水準で類型間が有意であった。Tukey法で類型間の対比較を行うとどの要因も、PM型がpm型よりも有意に起床、対話での礼儀、感謝と謝罪の要因について望ましい習慣化がなされるといえる。

5つの要因をまとめた全体的な基本的生活習慣は、母親がPM型やM型の場合、子どもはプラスの習慣形成を促進されるが、P型やpm型の母親の下では子どもに習慣化の促進は少ない。母親の場合も父親と同様にM次元の機能が高いことが、子どもの基本的生活習慣の形成や定着に必要であるといえる。

〈両親の類型と基本的生活習慣の5要因〉

ここでは、両親を組み合わせた類型ごとの傾向を検討する。

両親の類型の組み合わせは4×4の計16類型となるが、PM-pm型(父の類型-母の類型、以下同じ順で表記する)とP-M型の類型は全く存在しなかったため、これらの2類型を除いた14類型について要因得点の1要因分散分析を行った(Table 5-6)。清潔、起床、他人への感謝と謝罪の3つの要因においては、いずれも1%水準で有意差がみられたので、これらの要因についてそれぞれTukey法による平均対間の比較を行った。

清潔さの要因については、Tukey法による結果、M-M型<P-pm型($p<.01$)、PM-PM型<P-pm型、M-M型<pm-pm型($p<.05$)といえた。すなわち、清潔さの要因に関して習慣形成がなされているのは、M-M型とPM-PM型の場合といえる。この2つの類型に共通点するのは、

両親がともに同じ類型であることと、両親がともに M 次元のリーダーシップが高いとことである。また、逆に習慣形成の水準が低かったのは、P-pm 型、pm-pm 型の場合であった。

起床の要因については、PM-PM 型 < pm-pm 型 ($p < .01$) といえた。すなわち、両親がともに理想的な PM 型の下の子どもは、両親がともに自由放任的である pm 型の家庭の子どもよりも、起床の習慣化がなされやすい。

他人への感謝と謝罪の要因については、PM-PM 型 < pm-pm 型 ($p < .01$) のみに有意差がみられた。ここでも、両親が理想的な型の家庭の子どもが、放任的な家庭の子どもよりも他人への配慮が促進されている。

以上に統計的に有意差が認められた 3 つの要因についてその傾向を検討してきたが、有意な F 比が見られなかった他の 2 つの要因、安全と身の整理整頓の要因、対話での礼儀の要因についても、一般傾向を述べると以下ようになる。

まず、いずれの 2 つの要因においても PM-PM 型が望ましい傾向を示した。母親が P 型の場合は、父親がどの類型であってもこれらの 2 要因の習慣形成には効果が少ない。安全と身の整理整頓の要因では、母親が M 型の場合は、父親がどの類型であっても子どもは望ましい方向の習慣形成を示す傾向にあった。

以上をまとめると、基本的生活習慣については、PM-PM 型という両親の組み合わせは、他のどの組み合わせ類型よりも、数値の上では子どもに望ましい習慣形成を促進する。そして特に pm-pm 型の家庭は、子どもの習慣形成が遅れるといえる。

全体的考察

本研究は、両親の養育態度が、子どもの基本的生活習慣に影響を与えるだろうという仮説の下に、両親の養育行動についての PM リーダーシップ理論にもとづき、PM-PM 型の両親は子どもの基本的生活習慣の形成、自己教育力にプラスの効果をもたらし、pm-pm 型の両親はネガティブな影響を与えるであろうという仮説を検討してきた。

基本的生活習慣については、とくに、安全と身の整理整頓の要因、清潔さの要因、対話での礼儀の要因、他人への感謝と謝罪の要因という 5 つの要因について検討した。

安全や身の整理整頓の要因と清潔さの要因に関しては、女子が男子よりも実践率が高かった。安全や身の整理整頓の要因は、因子分析の結果、礼儀要因や清潔さの要因、規則を守るという項目等も数個混在していた。これらの項目は、社会的望ましさという側面が含まれているように思われる。社会的望ましさについては、男子よりも女子において、より敏感と思われる。これは、親が女兒に対してもつ「女の子らしさへ」の期待とその期待に基づく女兒の素直な受け入れと直結すると考えられる。これは、清潔さ要因に関しても同様であろう。

親と子どもの関係では、父母が PM 型や M 型の場合は、男子女子いずれもプラスの効果をもたらした。P 型や pm 型の場合はマイナスの影響をもたらした。

安全や身の整理整頓の要因、清潔さの要因は、特に、道德意識が芽生えていない幼児期の早くから身の自立的行動の形成のために親が子どもに重点的にしつける事柄である。その際、子どもは親の躰を受容拒否しながら生活習慣を身につけていく。こうして子どもが身につけた習慣は無意識化され継続される。日常の生活行動の基本的な習慣形成は、親と子の情緒的なつながりがあることによって促進される。口うるさいだけで、子どもの気持ちの受容に無関心な親から

は、子どものよい習慣形成は望めないであろう。両親の M 型の優位性はこの情緒的接触の多さが子どもの側に親の期待の受容を高めるためと考えられる。

一方、起床の要因は、テレビの視聴時間やクラブ活動の影響も大きいと考えられるが、学年が上がるにつれて一定の刻限での起床や、独力での起床は不安定な傾向がある。親が子どもに無関心であれば、子どもはその乱れた習慣の改善に努力しないだろう。一般傾向として、PM 型の父母は起床要因にプラスの影響を与え、pm 型の父母はネガティブな影響を子ども与えているが、特に女子は男子よりも起床要因の不安定性が顕著である。さらに女子は、父母を問わず親の養育類型に左右されている。これは、女子が男子よりも依存性が高いという一般傾向を反映するのかもしれない。

男子は、母親よりも父親の養育類型によって左右されている。しかも、4つのタイプのうち、pm 型だけにネガティブな傾向がみられる。男子は、異性の母親よりも同性の父親に対する畏怖や尊敬の念が生じ、4～6年生という時期は、父親の言動を取り入れる発達段階に達しつつあるのかもしれない。

対話での礼儀要因、他人への感謝と謝罪の要因においては、PM 型が、pm 型よりもプラスの効果を示した。また、両親の 16 類型では PM-PM 型が pm-pm 型よりも効果的なことが認められた。しかし、これら 2つの要因では親の養育類型による影響はそれほど大きいものではなかった。これらの項目に属する項目が少ないという理由のほかに、これらの要因では、挨拶や礼儀を重視するという日常の学校教育を通しての躾が大きく作用していることが考えられる。

以上を総合して基本的生活習慣と親と子の関係をみた場合、当初の仮説はほぼ検証されたといえる。つまり、PM-PM 型の両親は、子どもの基本的生活習慣の形成にプラスの影響を与え、pm-pm 型の両親は、ネガティブな影響を与えるということが明らかになった。また、P 型の父親が男子に、P 型の母親が女子にネガティブな影響を与えるということも見いだされた。しかし、基本的生活習慣の形成は、親と子の間だけに限定されたものではない。基本的生活習慣は、対話における礼儀、他人への感謝と謝罪のように、親子の間だけで躾られるのではなく、親子以外の他者との社会的な関係で形成される要因も多い。

本研究は、親の養育態度が子どもの基本的生活習慣の形成、自己教育力に及ぼす効果の検討を試みてきた。その結果、概して、PM-PM 型の両親は子どもにプラスの影響を及ぼし、pm-pm 型の両親はマイナスの影響を及ぼしていた。本研究を通して親子の間に最も大切な機能は M 機能に内包されている子どもへの愛情であろう。親の愛情を感じとって育った子どもは、そうでない子どもと比べてプラスの結果を示している。さらに P 機能のもつ厳しさが加われば、子どもは自己反省力と、望ましい基本的生活習慣を身につけて自己を律していくであろう。親が子どもに対して無関心の場合、そうした子どもの自律の低下を招くであろう。

要 約

本研究は、両親の養育態度が子どもの基本的生活習慣の形成、自己教育力に及ぼす影響について、明らかにしようとした。

まず、両親の養育態度に関する 32 項目と基本的生活習慣に関する 40 項目と自己教育力に関する 20 項目を含む質問紙を作成した。なお、項目の選択肢は、両親の養育態度項目が 5 段階評定、基本的生活習慣項目は 3 段階評定であった。

被験者は、熊本市内の P 小学校の 4～6 年生の男女 267 名である。

各質問セットについて直接バリマックス法による因子分析を行った。因子分析にあたっては、ピアソンの相関行列の主対角要素に各行の最大の相関値を共通性の推定値として入れて因子の抽出を行った。

両親の養育態度項目は、従来の因子分析結果と同様に、社会化作用に関する 10 項目から成る P 次元の因子、情緒的相互作用に関する 10 項目から成る M 因子が見いだされた。

基本的生活習慣項目の因子分析の結果は、安全や身の整理整頓の因子、清潔さの因子、起床の因子、対話での礼儀の因子、他人への感謝と謝罪の因子という 5 因子が見いだされた。

両親の養育類型は、従来の研究と同様に、P、M 得点の全体平均を基に PM 型、P 型、M 型、pm 型の 4 類型に分類した。基本的生活習慣については、各因子に含まれた項目の合計得点をそれぞれ算出して要因得点とした。

両親の養育態度と基本的生活習慣の 5 要因得点の関係は以下の如くであった。

- 1) PM 型、M 型の父親または母親は、P 型と pm 型の親よりも、男女ともに安全や身の整理整頓要因、清潔さの要因に関してプラスの習慣形成をもたらしていた。
- 2) PM 型の母親は pm 型の母親よりも、女子に対して起床に関する習慣形成にプラスの影響を及ぼしていた。同様に、pm 型の父親は、男子に対してとくにマイナスの影響を与えていた。
- 3) PM-PM 型の両親は、基本的生活習慣の形成に良い影響を及ぼし、pm-pm の両親は、マイナスの影響を及ぼした。

引用文献

- 古川綾子, 三隅二不二, 篠原弘章 1969 親の PM 式リーダーシップ測定(1) 日本心理学会第 23 回大会発表論文集, 293.
- 古川綾子, 篠原弘章 1970 親子関係—因子論的研究, 日本グループダイナミクス学会第 18 回大会発表
- 古川綾子 1973 両親のリーダーシップ行動認知に関する発達心理学的研究, 教育心理研究, 22(2), 69-79.
- 古賀啓子, 篠原弘章 1994 雲仙賢岳災害後の子どもの生活行動の変化, 九州心理学会第 55 回大会発表論文集, 22.
- 小嶋秀夫 1970 親の行動インベントリ(PBI)の検討, 金沢大学教育学部紀要, 16, 129-144
- Schaefer, E. S., 1959 A circumplex model for maternal behavior, J. of Abnorm. Soc. Psychol., 59, 226-235.
- Schaefer, E. S., 1965 Child's Reports of Parental Behavior Inventory, Child Development, 36, 413-424.
- 篠原弘章 1994 雲仙普賢岳災害が家族集団および学級集団に及ぼす影響, 熊本大学教育学部紀要, 人文科学, 43, 227-246.
- 篠原弘章, 福山久子 1987 両親の養育態度が児童の達成動機と学校不安に及ぼす影響について, 熊本大学教育学部紀要, 人文科学, 36, 257-276.
- 篠原弘章, 森田真美 1989 児童の認知にもとづく両親の養育行動とパワーについて, 熊本大学教育実践研究, 人文科学, 6, 113-131.
- 篠原弘章, 井上大介 1991 両親の養育態度が児童の自己教育力に及ぼす影響について—とくに友人やきょうだいの賞賛・叱責場面について, 熊本大学教育学部紀要, 人文科学, 40, 305-324.
- 三隅二不二 1966 新しいリーダーシップ 集団指導の行動科学, ダイヤモンド社.
- 三隅二不二 1978 リーダーシップ行動の科学, 有斐閣
- 文部省 1978 小学校学習指導書 道徳編
- 文部省 1985 小学校における基本的生活習慣の指導—望ましいしつけの工夫